

値動きの未来予測における協働学習の有効性に関する分析

1932144 横山 空

指導教員：山崎治 准教授

1.はじめに

近年、コロナ禍の影響による景気の悪化など経済社会環境の変化に伴い、経済的不安を抱えている人が続出している。この経済的不安を和らげることから「投資」への関心は高まりつつあるが、金融リテラシーが低い人が金融商品を購入することはリスクが高いと考えられる。金融リテラシーの向上によって安全に投資活動を行うことは期待できるが、篠原ら(2018)は、投資において重要な値動きの予測に関して、バイアスや個人の価値観等の個人特性が予測に影響を及ぼすことがあると指摘している。このような個人の価値観やバイアスの存在を意識するには、複数人で値動きを予測した結果、異なる結果になり得ることを互いに知ることが効果的だと考えられる。

そこで本研究では、投資に関わる様々な知識を前提とせず、簡易で直感的な値動きの予測を行わせることで、個人ごとの価値観の違いやバイアスの存在に注意が向けられるかという点に注目した。

2.目的

投資および金融に関して初心者である学習者をペアとし、値動きのチャートと直感的な予測の方法のみを情報として与え、異なる予測に基づくコミュニケーションの様子を観察する。さらに、他者との協働を通じて、金融リテラシーに関する学習意欲や、投資活動に関する興味が向上するかを確認する。

3. 実験 協働による値動きの予測

3.1 方法

実験参加者： 本学情報科学部情報ネットワーク学科4年生,3年生 8名(男性7名/女性1名)が2人1組となり実験に参加した。

材料： チャートの読み取りや値動きの予測に関するマニュアルとチャートから値動きの予測を行う個人課題・協働課題を5問用意した。また予測に関する自信や投資活動への関心などに関する事前・事後アンケートを作成した。

課題： 為替チャートを用い、その後の値動きの変動を予測する課題を作成した。課題の例を図1に示す。

手続き： 実験参加者は2人1組となり、実験全体の説明を受けた後、事前アンケートに回答した。回答後、マニュアルが提示され、値動きの予測について基本事項を読解した。その後、制限時間5分(さらに5分までの延長あり)予測の個人課題に取り組み、2問目までの答え合わせを行った。次に、制限時間5分(さらに5分の延長あり)で協働課題として、個人課題の3問目以降と同じ問題について、個人課題の回答を踏まえて協働して値動きの予測を行った。協働課題に取り組む様子はビデオカメラで記

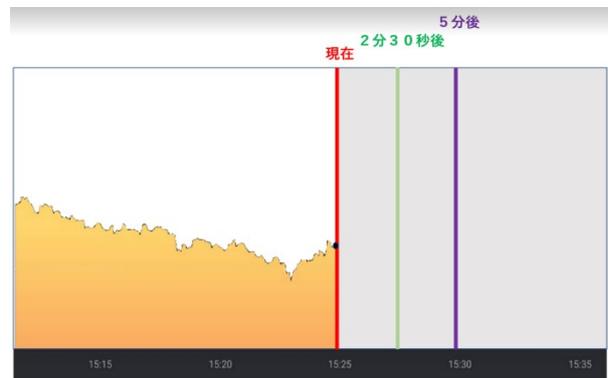


図1:チャートの予測課題

録を行った。最後に事後アンケートへの回答をしてもらった。

3.2 結果

図2にアンケートにおける個人課題と協働課題の比較を求めた回答の結果を示す。

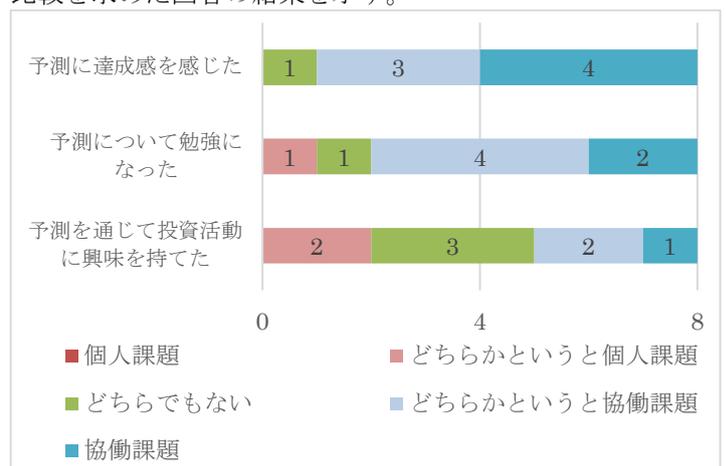


図2:個人課題と協働課題の比較

その結果、「予測を通じて投資活動への興味を持てた」では個人課題と協働課題での違いは確認できなかったが、「予測に達成感を感じた」「予測について勉強になった」では、協働課題の方が多かった。

4.まとめ

本実験では、金融リテラシーに関する学習意欲や、投資活動に関する興味の向上はみられなかったが、個人で値動きを予測するよりも協働で予測するほうが達成感を感じやすかった。また、予測における他者の意見を参考にすることで更に学習意欲が深まりやすかった。

参考文献

篠原恵, 富田篠原, 綿村英一郎, 森川和則. (2018). 投資・投機判断における未来予測の個人差(1) - 株式投資未経験者に対する実験室実験 -. 日本心理学会第82回大会 p. 580.